

# くにたち 公民館 だより



発行  
 国立市公民館  
 〒186-0004  
 国立市中1-15-1  
 ☎ 042-572-5141  
 FAX 042-573-0480  
 休館日：毎週月曜日

一連続講座『ポスト「3.11」 社会のカタチ 私たちのオモイ』講師・参加者の声一

## 東日本大震災に学ぶ

昨年度、公民館では東日本大震災の経験に学び、これからの社会や地域を考える講座を実施しました。今回は、講座後半のテーマ「エネルギー」「防災」「ボランティア」に関連して、連続講座最終回を担当した講師・野元弘幸さんと、関連講座参加者のお二人に感想等をお寄せいただきました(2・3頁)。

3月30日の講師・野元弘幸さん  
 社会教育、多文化教育が専門  
 「地域でのつながりを大切に」



◇大船渡市赤崎地区からの「教訓」  
 東日本大震災後のゴールデンドーナツから岩手県大船渡市の復旧・復興支援にかかわってきた。その中で、家屋などの被害は大きかったにもかかわらず、犠牲者が非常に少なかった赤崎地区に注目してきた。高さ約10メートルの津波に襲われたものの、人口約6千人の赤崎地区での犠牲者はわずか45人であった。宮城県では同規模の地区で、850人の方が亡くなっている。赤崎地区の犠牲者が少なかったのは偶然ではなく、自治組織の核となっている公民館で、日ごろから住民主体の丁寧な防災訓練が行われていたためである。大震災

いま、私たちができること

野元弘幸 (首都大学東京)

直前にあった2月9日の地震の際は、避難率100%を達成している。

また、こうした防災訓練の成果は、被災後の避難所の運営にも活かされた。被災翌日の3月12日から毎朝全員朝礼が開かれ、生活情報を共有して、スムーズに避難所が運営されると同時に、支援物資やボランティアの受け入れも積極的に行われた。

◇地域で取り組む防災の重要性

今、首都直下型地震や東海・東南海・南海地震が起きると予想されているが、東日本大震災の経験に学びながら、改めて地域における防災訓練や防災教育の重要性を自覚する必要がある。

確かにこれまであまり話したりすることがなかった近所に声をかけて、災害時の対応について一緒に考えるのは容易なことではない。しかし、ひとたび災害が起きると、共に助け合わなくてはならないのは事実である。そして、災害に備えれば、地域の犠牲者は確

実に少なくなる。被災地でのボランティア活動、視察などを通じて、防災活動の重要性を学び、地域でお互いに顔の見える関係を作り上げる工夫をしていくことが求められている。



3月16日実施講座のテーマは「立川断層と防災」グループごとに、地域にできることを話し合いました

# 僕は「3・11」を忘れない

岩元英憲 (西)

「僕は、何故もつと早くここへ来なかったのか？」

宮城県気仙沼市の町中に打ち上げられた巨大な漁船の前に、茫然と立ち尽くし、言葉を失った。昨年11月末に、町や漁業が壊滅的被害を受けた宮城県気仙沼を訪れ、カキなどの養殖再開に励む漁師さん達の手伝いをしてきた。仮設暮らしでたくさんの大切なものを失ったであろう彼らは、僕らを船に乗せ、カキの養殖の仕方やカキの素晴らしさを教えてくれ、たくさんのカキやホタテ料理をごちそうしてくれた。養殖作業の手伝いに来た僕は彼らのおもてなしの心や優しさ、震災以前よりも素敵な町を造るといふ覚悟に生きる勇



気仙沼市唐桑町にて、カキの種を紐で巻きつける作業中の岩元英憲さん

気をもらった。帰り際、「泣きたいけど泣いていられない」と笑顔で話していた漁師さん家族のお母さんの言葉が忘れられない。

僕は、絶対に気仙沼での思いや葛藤を必ず、友人や家族、多くの人に伝えると決意した。はずだった。今でも僕の心には、しっかりと当時の光景が焼きついている。けれど、誰かに話しても心に響かず、次第に伝えることを諦めている自分がいる。あの震災はほとんどの人にとって、過去の、私達に関係無い出来事になったと思う。

「風化させてはいけない」という言葉さえ、聴くことが少ないように感じてしまう。しかし被災地では、何十万人もの人達が明日に向かって懸命に歩いている。だから僕は一つの想いを胸に秘めている。それは「僕の大切な人を一人でも守れるように行動し、多くの仲間を作る」ことだ。公民館などで行われている震災・原発関連のシンポジウムに参加し、立川防災センターでは救命講習を受け、可能な限り東北に足を運んで

いる。農産物の風評被害で苦しむ福島県いわき市には数回訪れた。そして次は、岩手県陸前高田市へ行く。とにかく現場の空気を感じ、人々の想いを受け止めていきたい。皆それぞれのやり方でいい。被災地の人々の幸せを祈るだけでも、素晴らしい行動の一つだと思う。一人一人が「自分の大切な人は必ず守る」という、人が人を想う気持ちが大変重要で、必ずいざれ襲ってくる大災害を乗り越える大きな力になることを切に願う。

僕は絶対に「3・11」を忘れない。「巨大な漁船の前に言葉を失った葛藤」を忘れない。「漁師さん達の優しさで生きる覚悟」を忘れない。

3月30日実施講座では、第五商業高校ボランティア部からフレッシュな活動発表がありました



3月30日実施講座では、第五商業高校ボランティア部からフレッシュな活動発表がありました

日時	テーマ	講師
12月1日(土)	3.11から歩き、見て、考えたこと ～東北学の視点から～	赤坂 憲雄 (学習院大学、福島県立博物館館長)
12月22日(土)	被災地の見えざる ジェンダー問題とその支援	竹信 三恵子 (和光大学)
1月19日(土)	私たちの社会とエネルギー ～歴史の理解と未来への想像力～	相川 高信 (三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社)
2月9日(土)	放射能の健康リスクと 対策を理解する	島田 義也 (独立行政法人 放射線医学総合研究所)
2月16日(土)	福島から憲法を見つめ直す	吉原 泰助 (福島大学名誉教授・元学長)
2月24日(日)	CINEVOX & シネマトーク ドキュメンタリー『無常素描』	大宮 浩一 (映画監督)
3月16日(土)	今後の大地震にどう備えるか ～立川断層と防災の コミュニティづくり～	山崎 晴雄 (首都大学東京教授) 国立市役所防災課課長
3月23日(土)	公民館・防災訓練 ～学ぶ・つながる・ためになる～	立川消防署/国立赤十字奉仕団 森岡 三保子 (防災料理研究家)
3月24日(日)	CINEVOX & シネマトーク ドキュメンタリー 『放射線を浴びたX年後』	伊東 英朗 (映画監督)
3月28日(木)	エネルギーと原発を考える ～再生可能エネルギーと 省エネの可能性～	橘川 武郎 (一橋大学)
3月30日(土)	災害ボランティアの課題と可能性 ～くにたち市民にできること～	野元 弘幸 (首都大学東京) 金子 健太郎 (国立市社会福祉協議会) 都立第五商業高等学校 ボランティア部 手づくりボランティアグループ



# ポスト「3・11」を考える視点

—講座「エネルギーと原発を考える」を聴いて—

土井鷹雄（富士見台）

2年前の3月11日、突然床が大きく揺らいだとき、地震の大きさに驚くと同時に「震源地はどこだろう」「津波は大丈夫だろうか」と大きな不安に襲われた。

ところが実際の地震は体感をはるかに超えた規模であり、「そんなに大きな地震だったのか」というのが最初に受けた衝撃だった。

この巨大地震は、想像を絶する巨大津波までも巻き起こし、甚大な被害をもたらした。被害はそれだけにとどまらず福島原子力発電所に修復不能な重大事故まで発生させ、世界の関心を集めた。あれから2年が経過し、私たちはあの地震をどのように記憶しているのだろうか。

この大災害に関して全国各地でさまざまな議論が交わされたと聞く。公民館でも『ポスト「3・11」



3月28日の講師 橋川武郎さん

をテーマに多くの講演会が行われた。その一環として、東日本大震災から2年目に当たるこの3月に一橋大学の橋川武郎さんを招いて『エネルギーと原発を考える』と題する講演会が開催された。一時はあれほど大きな話題になり、連日のように議論が交わされた原子力発電の将来像についてもいつしか下火になり、ニュースの扱いも日々小さくなっていく。しかし、この問題は軽視できるものではなく、だれもが関心に向けねばならない問題と言えよう。

橋川さんの講演テーマは「エネルギーと原発」であったが、内容は原発の是非論に留まらず、今後のエネルギー政策や原発問題についても、政治的課題から地球環境の将来にまで議題がひろがり、大きなインパクトがあった。

2年前、日本は世界情勢から孤立しかけていた。それだけに東日本大震災の災害からどのように立ちなされるか関心を抱かずにはいられなかったが、必ずしも被災者の視点に立った復興とは言いがたい

というのが率直な感想だ。その意味で、橋川さんがこの問題を幅広い視点から言及したことに感謝しなければならぬだろう。ここから先は私たちの日常生活に直結した問題なので、各自が今後の推移を注意ぶかく見守り、将来に向けてどのような展望が進められていくのか見極めて理解していく必要があるのだろう。

この問題が軽視できるものではなく、だれもが関心に向けねばならない問題と言えよう。

橋川さんの講演テーマは「エネルギーと原発」であったが、内容は原発の是非論に留まらず、今後のエネルギー政策や原発問題についても、政治的課題から地球環境の将来にまで議題がひろがり、大きなインパクトがあった。

〈図書室のつどい〉

## みんなで決めた「安心」のかたち

—ポスト3.11の「地産地消」を考える—

お 話 五十嵐 泰正（筑波大学）

東京のベッドタウン、千葉県柏市。都市近郊農業が盛んなこの地域は福島第一原発事故の影響で“ホットスポット\*”となり、農家や住民に不安が広がりました。



地元野菜の買い控えが広がるなか、コミュニティの壊れかけた信頼を取り戻す運動を起したのが五十嵐さんと「安全・安心の柏産柏消」円卓会議の皆さんです。

リスクを負った地域の農業にどう向き合うか。消費者、生産者、流通業者、飲食店といった立場の異なるメンバーがこだわったのは「みんなで安全の基準値を決める」ということでした。その取り組みと実践の結晶がまとまった1冊の本は、地域の食と農のあり方、そして「3.11」以後の公共性とは何かを問いかけます。

円卓会議の呼びかけ人であり、一市民として活動に関わった五十嵐さんにお話をうかがいます。

\*ホットスポット：周囲より放射性物質の濃度が高い部分・地域のこと。

〈五十嵐さんの本〉『みんなで決めた「安心」のかたち—ポスト3.11の「地産地消」をさがした柏の一年』(亜紀書房)

と き 7月6日(土) 昼2時~4時

ところ 公民館 3階講座室

\*ご自由においでください。

## 「震災」に学び、実践に活かす

—「震災」をテーマにした関連講座・開催報告—

昨年度、東日本大震災から2年が経過する時期をとらえて、連続講座「ポスト「3・11」社会のカタチ 私たちのオモイ」を実施しました。

その他、憲法や環境の講座、映画会等でも、同時期に震災に関連したテーマを取り上げました。右の表はそうした講座の一覧です。

また試みとして、関係団体の協力を得て防災訓練に取り組むなど、学びを実践的に活かしていくことにも試みました。

参加者の方々からは、「講師の方、それぞれの切り口で分かりやすく、色々な考え方、見方をお

話いただき、一人一人がどう考え、行動すべきか考えることができたと」という趣旨の感想が多く寄せられました。その一方、後半の「防災」や「ボランティア」がテーマの回で参加者が減ったことをめぐって、「立川断層への関心が高いのはわかるが、助け合うことへの関心が低いことが気になる。地域の互助・共助を深く考える人が増えてほしい」との声もありました。

公民館では、引き続き震災をテーマにした学習会を不定期ながら開催していきたいと思えます。今後とも講座へご参加いただき、ご意見をお寄せください。(公民館)

〈男性の料理教室〉

## アクアパッツア

—魚介と野菜を白ワインで煮込むイタリア料理—

作り方はとても簡単ですが、魚介の旨みが味わえ、ヘルシーでおもてなし料理にも出せる一品です。他に前菜、スープ、デザート等を作る予定です。

講師 北川 みどり (管理栄養士)

とき 6月30日(日)朝10時~昼1時

ところ 福社会館 3階料理講習室

定員 20名(先着順) 費用 一人800円(予定額)



6月28日(金)までに公民館へお支払いください(受付時間:月曜日以外の朝9時~夕5時)。食材購入後のキャンセルは実費を負担していただきます。

持ち物 エプロン、三角巾(タオル可)、筆記用具  
ポリ袋(ゴミ持ち帰り用)

申込先 6月11日(火)朝9時~  
公民館 ☎ (572) 5141

〈くにたちブッククラブ 時空をこえる言葉〉

## 黒田夏子『a b さんご』

(文藝春秋)

講師 山岸 郁子 (日本大学・日本近代文学)

とき 6月20日(木)夜7時半~9時半

ところ 公民館 3階講座室

申込先 公民館 ☎ (572) 5141

\*前回の案内から日程が変更になりました。7月は11日(木)綿矢りさ『蹴りたい背中』(河出文庫)です。

## 第58回くにたち市民文化祭

~参加団体募集!~

日ごろのグループ活動の成果を文化祭で発表してみませんか? 今年の秋に公民館の会場を使ってイベントを行いたい、発表会や講演会、ワークショップを企画したい、仲間作りがしたい、という団体を募集しています!

開催時期や会場については、公民館にご相談ください。

◆次回実行委員会

とき 6月27日(木)夜7時~

ところ 公民館 3階講座室

\*参加希望の団体は事前に公民館へご連絡ください。

問合せ 公民館 ☎ (572) 5141

文化祭の実行委員長および開催予定期間が、  
次のとおり決まりました。

委員長 おおさく かせい 大作 可星 (総合美術展)

開催予定期間 平成25年10月中旬~12月1日

\*詳しい日程や行事の内容については、公民館だより10月号等でお知らせします。

〈美術のワークショップ〉

## 生き物としての野菜を描こう

講師 降矢 洋子 (画家)

日ごろ、食料や商品としてだけ見ている野菜を「生き物」として描くことに挑戦します。油絵以外なら、画材は自由。(水彩、クレパス、色えんぴつ、はり絵など)自分で描きたいと思った野菜を手に、公民館地下ホールへおいでください。ただし、第1回目は、パプリカを描きます。何個でもいいですし色も好きなものをご用意ください。大人になってから、しばらく絵を描いていないという方も歓迎します。パプリカを忘れずに持ってきてください。



講座終了後には作品展示会を行う予定です。

〈降矢さんの作品〉『どうぶつえんのおいしゃさん』(福音館書店)、紙芝居「いなむらの火」(童心社)ほか多数。

とき 6月16・30日、7月7・14日、9月8・22日、  
10月6・20日(全8回)

いずれも日曜日 朝10時~12時

ところ 公民館 地下ホール

定員 30名(15歳以上の方。先着順)

持ち物 鉛筆(2B~4Bくらい)、消しゴム、スケッチブック1冊(厚手の紙のもの。F6サイズ以上)、雑巾、画材。

申込先 6月9日(日)朝9時~

公民館 ☎ (572) 5141

\*よごれてもよい服装でおいでください。

シネボックス 公民館シネマトーク

## 『第三の男』

The Third Man

イギリス 1949年 白黒 101分

監督 キャロル・リード 原作 グレアム・グリーン

音楽 アントン・カラス

出演 オーソン・ウェルズ、ジョセフ・コットンほか

映画史上に燦然と輝くサスペンス映画不朽の名作。巧みなストーリー展開、今なお斬新な映像、哀愁に満ちたチャターの調べ。何よりも名優オーソン・ウェルズの圧倒的な存在感!これぞ映画!まさに映画!!

《シネマトーク》「サスペンス映画の魅力」

お話し 北里 宇一郎 (脚本家)

とき 6月30日(日)昼2時~4時30分

ところ 公民館 地下ホール

定員 85名(当日先着順。開場1時)

\*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。





守り宮  
撮影 中野洋子(東)

# ひろば

(6ページにもあります)

**「今、伝えたいこと」上映会**

一橋大学大河内ゼミ主催で、福島県相馬高校放送部の演劇の上映をします。上映後に放送部顧問の渡部義弘さんと飯館村酪農家の長谷川健一さんの講演。無料。

日時 6月30日(日) 昼1時半

場所 大学内マキキュリタワー

連絡先 大河内(580) 8522

**ベトナムレクチャーシリーズ**

日越外交樹立40周年を記念した特別講義を実施します。第4回6月17日(月)16時30分、第5回6月24日(月)16時、第6回7月1日(月)16時。

主催 一橋大学VNSO実行委員会

場所 マキキュリタワー14階3405

連絡先 長谷川(080) 5467 0886

**ボイストレーニング会員募集中**

ぐるーいぶレニーは安井い子先生(芸大音楽家卒)のご指導で、童謡愛唱歌を楽しく歌いながら正しい発声を学ぶ会です。皆様のご参加をお待ちしています。

日時 第二・四金曜日 朝10時

場所 富士見台レニースタジオ

連絡先 伊藤(090) 4660 1195

**パソコンファミリー会員募集**

初心者レベルから中級レベルまでの実力を養成できます。趣味や就職・転職にも対応できる内容です。ノートパソコン持参で、楽しく一緒に学びませんか。

日時 第一・二・三(木)朝10時

場所 公民館 講座室(予定)

連絡先 吉田(571) 5313

**和弓をひいてみませんか!**

和弓は姿勢を良くし、集中力を養い、強さを選ばず誰にでも使えるスポーツです。初めての方でも用具はいりません。会費一回500円。夜7時以降電話してください。

日時 月二(三回)又は(日)不定期

場所 昭島市総合体育館弓道場

連絡先 長谷川(576) 1489

## 〈社会体育事業〉 小学生のテニス教室

と き 7月22日(月)・23日(火)・24日(水) 全3回 朝8時~10時

ところ 谷保第三公園内テニスコート(富士見台2-34)

指導員 国立市スポーツ推進委員 池田将典 他

対象 小学生1・2・3年生(市内在住・在学)

定員 60名(はじめての方優先。応募者多数の場合は抽選)

申込み 往復はがきの往信用裏に、氏名(フリガナ)・学年・性別・住所・電話番号を明記のうえ、下記までお申込みください(はがき1枚につき1名。複数名の応募・記載漏れ等は無効とします)。※返信用表にも住所・氏名を明記してください。

申込締切 6月24日(月) 必着

申込先 〒186-8501 国立市教育委員会 生涯学習課「小学生のテニス教室」係

問合せ 国立市教育委員会 生涯学習課 社会教育・体育担当 ☎(576) 2107(直通)

**カラオケサークルへのお誘い**

演歌、歌謡曲を練習しています。歌を歌うと言葉、音程リズムなど脳の活性化に有効です。歌って元気になります。初心者の方もどうぞ。花みずき会。

日時 毎週月曜日 昼1時~5時

場所 北市民プラザ

連絡先 戸矢崎(571) 2842

**国立カラオケ愛好会 会員募集**

キングレコードの坂本数馬先生のピアノ伴奏で、毎月課題曲の個別歌唱指導を受けています。楽しい歌仲間のサークルです。歌の好きな方、見学も大歓迎!

日時 第二・四火曜日 昼1時

場所 公民館 音楽室(予定)

連絡先 進(529) 0061

**第179回くいしんぼクラブ アルメニア料理**

アストギクさんにお得意の家庭料理を教えてください。

材料費800円。ゴミ袋とふきんをご持参ください。

日時 6月15日(土) 昼1時

場所 福祉会館 3階料理講習室

連絡先 八宮(571) 1007

**災害時の口腔ケアの重要性**

災害時でも口の中のケアは大切です。清潔に保つことで重大な病気を防ぐことに繋がります。大妻女子大学の秋山先生にお話していただきます。KUNIBO主催。

日時 6月26日(水) 昼1時

場所 公民館 集会室

連絡先 山崎(574) 4052

**公民館運営審議会報告**

5月14日(火) 第7回定例会を開催。委員14名、館長、職員2名が出席、傍聴2名

**議題**

- 公民館職員異動に関する「要望書」について。
- 市長、教育委員長に要望書を提出することを決定した。
- 諮問「現代の地域社会に求められる公民館の事業」について。配付資料、2013年度年度事務報告書(公民館暫定版)等に基づいて館長より諮問の趣旨等につき説明を受けた。若干の意見交換。公民館を取り巻く現状の確認、市民が公民館に期待すること、問題点など、公民館で整理することともに、委員も提案し、今後検討すべき事項を把握することから一歩踏み出すこととした。

**報告事項**

- 公民館だより編集研究委員会 4月号は盛りだくさんで、ポイントをしぼりたかった。表記の方法、写真の説明などについて改善意見あり。
- 社会教育委員の会 11期は終了。5月に新年度第1回を開催。
- 東京都公民館連絡協議会 4月24日に総会を開催。2013年度は小平市が会長。委員部長は西東京市。
- 社会教育学習会 公運審への諮問に沿った学習会を9月5日(木)に開催予定。

次回は6月11日(火) 午後7時15分から。傍聴歓迎。(大井)

今月の公民館 (6月、7月初)

\*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 8日(土) 昼～「生ごみ分解BOXをつくろう！」
- 16日(日) 朝～美術のワークショップ  
「生き物としての野菜を描こう」
- 20日(木) 夜 くにたちブッククラブ  
「黒田夏子『a bさんご』」
- 27日(日) 夜 くにたち市民文化祭 実行委員会
- 30日(日) 朝 男性の料理教室「アクアパッツア」
- 30日(日) 昼\* CINEVOX 公民館シネマトーク  
『第三の男』
- 7月6日(土) 昼\* 図書室のつどい  
「みんなで決めた『安心』のかたち」



和み

撮影 中野洋子 (東)

手のひら健康バレーへのお誘い  
20gの軽いボールを手のひらで弾ませて、3回以内で相手コートに返す簡単な高齢者向けのスポーツです。汗と笑いで仲間の「和」が広がります。見学してください。  
日時 毎週水曜日 昼1時～  
場所 総合体育館  
連絡先 宮本(571) 6430

ひろば  
(5ページにもあります)

掲載写真募集

「ひろば」に掲載する、国立のまちの風景や行事、自然などの写真を募集しています。毎月1、2枚掲載予定です。恐縮ですがお礼はお出しできません。ご協力いただける方は、公民館までご連絡ください。

「くくろ太極拳」会員募集

24・48式を中心に年齢問わず楽しく太極拳をしています。いよいよ剣のレッスンも始まります。初心者の方も大歓迎！太極拳で心身共に健康になりましょう。  
日時 毎週金曜日 昼3時～5時  
場所 総合体育館 第3体育室  
連絡先 山田(090) 3439 0339

水彩画「パレット」作品展

第8回サークル会員による作品展を開催します。今回も日ごろ楽しみにしながら描いている作品を展示しますので、ご参加ください。  
日時 6月15日(土) 朝9時半～  
22日(土) 5時。月曜日休み  
場所 公民館 1階ロビー  
連絡先 釧持(576) 2495

マトリョーシカの会コンサート

ゲストは東京外国語大学ロシア民謡研究会ルムークです。会員とのコラボレーションのほか参加者全員でロシアの歌を歌います。カナ付きの楽譜あり。資料代500円。  
日時 6月29日(土) 朝11時～12時半  
場所 公民館 地下ホール  
連絡先 大貫(572) 5214

喫茶「わいがや」スタッフ募集!

公民館内の喫茶「わいがや」では、学生や社会人の若者スタッフが、余暇の時間を使って交代でお店を開店しています。公民館が連絡取次ぎます。運営主体は「障害をこえてともに自立する会」  
連絡先 公民館(572) 5141

「ひろば」欄投稿規定

市内の団体活動のお知らせの場です。原稿の締切りは、掲載希望月の前月7日の午後5時です。会員募集は6ヵ月に一回掲載することができ、紙面の都合により翌月掲載となる場合がありますので、ご了承ください。

国立短歌会  
(サークル訪問2013)

会は、「四季短歌会」を主宰された市内在住の歌人青柳節子さんにより約15年前に国立支部として発足しました。先生のご都合で今年1月から新指導者をお願いし、名称を国立短歌会としました。現在の会員は9名です。

『萌えいするみどり芝生の輝きにわが活性の泉湧き出す』  
と詠んだ毎月ゴルフコースを廻る90歳の元氣な男性を始め、初心者から実力のある方々が参加し、四季の花や、社会の出来事などを情緒豊かに瑞々しく詠んでいます。

例会は、公民館で毎月第3木曜日、午後1時半から2時間、題は自由で、先生に添削して頂いた中から二首を提出します。会員間で忌憚のない感想が述べられ、和やかな中に先生の講評があります。  
「詠人の目線と心情を生かした具体的な指導は、丁寧でわかりやすい」と好評です。

会員から、柿本人麻呂の歌集、永田和宏／河野裕子の本、『万葉のこころを描く』展の図録などの紹介もあり、歌を愛し、勉強し続ける熱気が伝わってきました。  
先生も四月の例会では、

「斯くまでも荒るとはつゆ思わざりし初花耐うるやこれの嵐に」  
他一首を披露されました。

講評のしめくりに、「作歌の心得として、日頃の感情を、定型の中に韻律を大切に浄化できると良いと思いがらつき、また辞書で意味と響きを確認することも大切」と話されました。

会員の成松さんは、「短歌は日記のように心情、情景を歌として残せること、美しさや感情を歌を通して共感できることがすばらしい」と語られていました。

国立は文化の町、歌をつくることで、文化を残すきっかけとしてほしい。大勢の愛好者、特に若い人の参加を待っていますとの、みなさんから強い要望を受けました。  
連絡先 成松(090) 5307 0836  
(文・写真 大井利雄)



韻律を大切に、和やかに感情を共有する